



5月の園だより



令和5年5月1日
目黒区立ひもんや保育園長

園庭に5歳児クラスが作った鯉のぼりが風に揺れ、遊ぶ子どもたちの目を楽しませてくれています。遊びながら5歳児クラスの子どもが「今日は気持ちいいね、お外でご飯食べたいね」とつぶやきました。それを聞いた担任はさっそく外で食べる計画をたて、みんなで作った鯉のぼりを見ながら給食を食べることにしました。「この鯉のぼりを作ったんだよね」と自分で作った鯉のぼりを見ながら、とてもうれしそうにいつもと違う雰囲気を感じながら食べていました。

暖かくなり、毎日のように「昨日の続きをしよう」と誘い合い、目を輝かせてどろんこ遊びをしている子どもたちです。園庭には水道の蛇口が3つしかありませんが、どのクラスの子も順番に並び容器に水を入れ、こぼさないように砂場に運んでいます。その中に1歳児クラスの子が一生懸命に手を伸ばし、流れる水を手に受けて、水の冷たさを感じながら流れる様子をじっと見ていました。砂、水、泥などに十分触れ、全身でその感触を味わい、子どもたちの感性を豊かに育んでいきたいと思えます。

5月行事予定

4・5歳児春の遠足
中旬 身体計測 避難訓練

6月行事予定

お祭りごっこ

懇談会の日程

4歳児クラス懇談会
1歳児クラス懇談会
0歳児クラス懇談会
3歳児クラス懇談会
2歳児クラス懇談会
5歳児クラス懇談会



4月から入園進級して一か月が経ちました。
各クラスの子ども達の様子をお知らせします。



ひまわり組(5歳児クラス)

裏の畑でダンゴ虫やカナブンの幼虫を捕まえたことをきっかけに、虫ブームが来ました。子どもたちは畑のどこに虫がいるのかをよく知っていてマットの下や草木の根元を探しています。子どもたちは捕まえたダンゴ虫を保育園で飼ってみたいと言ってきました。そこで飼うためにはどんな環境が良いのか図鑑で調べてみました。湿った土が良いとわかると、霧吹きや小さな容器で水をかけて、「葉っぱを食べるんだよ」と落ち葉を入れたり、枝も入れて「ここは遊ぶ所」と虫たちのことを考えて飼育ケースの中を作っていました。翌日その枝にダンゴ虫が上っていくと「遊んでるよ」「やった、上ってる」と友達と一緒にケースの中を覗いていました。自分たちで試したり発見したりしたことを友達と共有していく楽しさを感じている子どもたちです。

つくし組(0歳児クラス)

園庭でマットの上に座るとジーと地面を見つめ不思議そうにしているので「お砂だね」と砂を子どもの目の前でこぼして見せると、目で追っています。その後子どもの手の平にもサラサラと砂をこぼしてあげると、ハッと保育士と顔を見合わせて驚いています。保育士が「さらさらだったね」と笑うと、砂と保育士の顔を見比べながら、安心したように動き出し、砂地に這って出て地面をパンパンとたたいたり、砂をつまんだりして遊ぶことができました。これからも子どもの“なんだろう”という発見や驚きに共感し言葉にしながらか一緒に楽しんでいきたいと思っています。

すずらん組(1歳児クラス)

園庭で遊んでいる時に、保育士がありを見つけて「ありがいたよ」と指を差すと、子どもたちもどこだろうと身を乗り出して探します。捕まえたくて手を伸ばしますが、素早く逃げてしまいます。「ここにいるよ」と言うとき真剣な表情で、指先を使ってつまもうとしていました。子どもの何としても捕まえたいという必死な眼差しがかわいい瞬間でした。“捕まえられそうで捕まえられない”このことが面白くて何度も何度も挑戦していました。子どもたちが面白いと感じたことに共感し、やってみようという意欲を大切に见守っていききたいと思っています。

ちゅういっぴ組(2歳児クラス)

ある日、一人の子どもが保育士の方を見て「もしもし」と積み木玩具を耳に当て電話に見立て話しています。保育士が「もしもし」と出ると「ごはんつくったよ」と言ってきました。「今行きますね」と答えると“ぴっ”と電話を切る仕草をして保育士がご飯を食べに来るのを待っています。保育士が行くと「どうぞ」と料理を振る舞ってくれるので「おいしい」と食べる真似をするにつこり笑顔です。その様子を見ていた友達が「ちょうだい」と保育士の横に座ると「いいですよ。からいのでいいですか」と新しいお皿にも盛り付けていました。自分の経験したことを、ごっこ遊びの世界で表現する楽しさを保育士も子どもと一緒に味わいながら遊びを楽しんでいきたいと思っています。

たんぽぽ組(3歳児クラス)

園庭に出ると「手押し相撲やろう」「がんばれー」「はっけよいのこった」と元気な掛け声がかかります。押し合いが長引くと、友達の背中を押して応援する子もいて、気づけば双方に応援が入り勝負に熱が入ります。勝負が決まると「やったー」と歓声があがりますが、負けた子は「もういやだ」と悔し涙を流し、その場を離れて行ってしまうこともあります。「負けて悔しかったね」「次は勝てるよ」と友達や保育士に悔しい気持ちに共感してもらったり慰めてもらったりすると、気持ちを切り替えて「またやる」と土俵に戻ってきています。負けたくない思い、悔しいけどもっと遊びたいという思いを丁寧に受け止め、子どもが次へと向かう意欲が持てるよう保育士も一緒に遊び関わっていききたいと思っています。

こすもす組(4歳児クラス)

毎日のように裸足になり泥んこ遊びを楽しんでいます。泥をかき混ぜると泥水の中から泡が出てきたり、いつもと違う砂の感触を肌で感じたり、いつもと違う水の色に気づくなど発見がいっぱいです。砂場では掘った穴に水を入れ、川や海を作っています。溜まった水がどんどん染み込んでしまうと「水もってくる」と水道と砂場をコップやジョウロを持って何往復もします。勢いよく水を入れ、ぴちゃっとはねるとそれだけでも大喜び。そして泥の中で足踏みをしてあっという間に全身泥だらけになり、ダイナミックに遊んでいます。全身で泥の感触を感じ、心も解放され自由にのびのびと思い切り泥遊びを楽しんでいきたいと思っています。